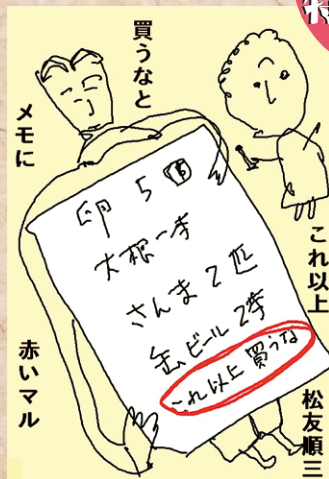


選者：川柳アート
八木健（月刊川柳総合誌）
「川柳マガジン」三元選者

特選



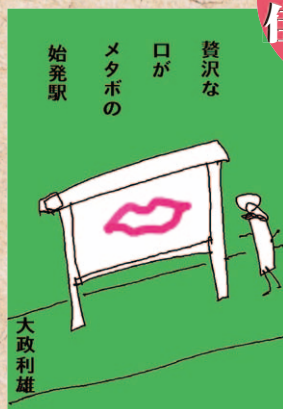
松友順三
これ以上
赤いマル
買うなど
メモに
これ以上買うなどメモに赤いマル
給料が銀行振り込みになって以来、私たちの権威は失墜。買い物を使い走りさせられるだけの存在になった。



新聞を
四角に
読んで
丸く
古い
新聞を四角に読んで丸く古い
「四角に」は、丹念に読むということ。
川柳に「丸ビル」を四角に逃げるにわか雨」があるが、藤原氏の句には深さがある。

藤原 白男（今治市）

佳作



大政 利雄（松前町）
贅沢な口がメタボの始発駅
終着駅が「メタボ」と因果関係を説明して、川柳の本道を行く作品となっている。飽食本線にある駅名だろう。



今川 一代（愛南町）
久しぶり元気がよったかと病院で
病院での再会だから、病気だと分かるはずなのにね。「元気がよったか」は「生きていたのか」程度に解釈しようか。



武井 基次（松前町）
歯をほめる顔が悪いと言えなくて
人間、どこか取り柄があるもの。きれいな歯だからと「歯」をほめるところが「実は私、総入れ歯なんです」だ。



永遠のペコちゃん（新居浜市）
可愛いと言われたエクボ今はしわ
日本皮膚科学会の見解によれば、エクボの変形したものが皺である。しかし、皺が変形してもエクボにはならぬ。



村田 節子（八幡浜市）
着膨れていることにする皮下脂肪
着膨れて脂肪を隠すにはワンランク上のサイズがよろしい。そのゆとりに安心して脂肪が進行の懸念もあるが。



田辺 進水（松山市）
よう呑んだと一升びんも横になる
擬人化は、対象になりすぎることで可能になる。妻に無視され、話し相手は「酒」だけという背景が分かる作品である。

ひろば APR.

絵てがみ

ネコヤナギ（内子町・63歳）

絵てがみを始めて10年余り。ブームに乗ったのがきっかけだが、老後独りでも楽しむことができる「自分育て」でもあった。絵てがみ友達も増え、「50円の幸せ」を感じているこの頃、絵てがみの宝が山のようになつた。

複雑な気持ち

まだまだ現役（松山市・50歳）

私には娘と13歳の息子、そして娘の子ども3人（4歳、2歳、0歳）、つまり孫がいる。反抗期の息子に「時代遅れの顔をしている」と言われて膨れっ面をしているが、孫に「ばあば」と呼ばれて笑顔。どちらも大切だが、複雑な女心……誰か分かって！

末娘の投稿

宇和島市・49歳

ある朝、愛媛新聞の「ヤン落」を読んでいると涙が出てきた。亡き祖父と自分の夢について書いた末娘の文章だった。実家の母に読んであげるとまた涙が……。母も泣いていた。仏壇の前で手を合わせ、父に報告した。夜、大学生の長女に電話すると「夕食のグラタンがしょっぱくなった」と言った。東京に出張

お便り募集

○川柳
テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には選者・八木健さんが切り絵やCGを使った「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントします。
○ひろば
エッセーなどを募集しています。テーマは自由、200字以内。誌面の都合上、原稿を割愛、修正する場合があります。ご了承ください。

ください。採用の方には、1,000円分の図書カードをお送りします。
川柳とひろばのあて先は下記の通りです。住所、氏名、電話番号、性別、年齢をお書きください（ペンネーム可）。必ず氏名を記入してください。
※ご応募いただいた個人情報、適切に取り扱います。
〒790-8511 松山市大手町1丁目12-1
アクリート編集室 通信係
Eメール accrete@enp-sc.jp